

古典の朗読と 信州地域史料アーカイブ

◇会場 長野市立長野図書館 3階視聴覚室

◇全席自由 500円 (当日受付で申し受けます)

平成27年5月17日(日) 午後1時30分～3時30分

- 1 信州地域史料アーカイブの案内 ～インターネット画面により紹介
- 2 善光寺参詣・女の旅日記から「東路日記」「とわずがたり」

朗読 / 菱山佳代子

箏奏者 / 小林恵美子

解説 / 宮下明彦

～「東路日記」は、天保12年(1841)筑紫の宅刀自(いえとじ)・女主人の小田宅子が、女性4名と連れ立った善光寺参詣などの旅行記です。歌枕を訪ね、行先々での買い物や芝居見物等、生き生きとした女旅の記録です。「とわずがたり」の作者は後深草院に仕えた二条。宮廷社会における様々な体験と見聞を赤裸々に描いた異色の告白日記。後半は西行の人生にあこがれ、32歳で尼僧姿となって東は鎌倉、そして、正応3年(1290)善光寺参詣の旅に出ます。



平成27年5月24日(日) 午後1時30分～3時30分

- 1 信州地域史料アーカイブの案内 ～インターネット画面により紹介
- 2 「平家物語」と信濃から 善光寺炎上・横田河原合戦・木曾最期・千手前

朗読 / 小山菜穂子

解説 / 宮下明彦

～善光寺がはなばなしく文学の世界に登場するのは『平家物語』でした。巻二の「善光寺炎上」は物語の主題の無常観を実感させる示唆を与え、巻六の「横田河原合戦」には北信の御家人笠原氏や井上氏が登場します。巻九の「木曾最期」に描かれる義仲と巴との別れ、今井兼平と主従二騎の奮戦は「平家物語」の名場面の一つ。巻十の「千手前(せんじゅのまえ)」は失意の女性の善光寺参詣でこの話を締めくくっています。



お問合せ 長野市立長野図書館 TEL 026-232-3558 (火曜日休館)

長野県図書館協会 TEL 026-217-9201 (火～金 9:30～16:30)

主催 長野県図書館協会・NPO 長野県図書館等協働機構

共催 長野市立図書館

◇出演者

菱山佳代子

ミュージカル「アリスと不思議の国」宮沢賢治「よたかの星」の朗読活動は好評を博す。朗読ボランティア養成講座等講師、コンサート・式典の司会等で活躍中。文化庁助成事業「東路日記」の朗読・ナレーションを担当。元信越放送アナウンサー

小山菜穂子

「朗読かたばみの会」主宰。「すみへいカルチャーセンター」「NHK文化センター松本」等県下各地で朗読の指導や朗読会を開催。CM・TV番組ナレーター、FMぜんこうじで朗読コーナー担当。アイビスクエアでの朗読会は毎年好評。元信越放送アナウンサー

小林恵美子

長野県芸術文化使節団としてオーストリア、ハンガリーにて演奏。2014年 第39回ジャパンウィーク（スイス ベルン市）に参加。現在、演奏活動とともに後進の指導にあたる。生田流箏曲 宮城社大師範

宮下明彦

長野県図書館協会事務局長、上田女子短期大学非常勤講師、元上田市立図書館・上田情報ライブラリー館長。編著に『明日をひらく図書館』『信州朗読駅伝』等



駐車場は勤労者福祉センター跡地の駐車場をご利用ください。
また、市内循環バス「ぐるりん号」もご利用ください。